形成外科　研修カリキュラム

【科の紹介】

形成外科では創傷治癒理論に則った洗練された外科手技を用いて、主に軟部組織の疾患や異常を治療します。治療の領域は先天奇形から外傷・再建まで幅広く扱っていますが、中でも顔面外傷や四肢の外傷が多くあります。研修医は体表の外傷の診察、治療が救急で十分できるように、創傷の管理について外来、手術の中で学んでいただきます。

研修期間：2 週間以上

A.　一般目標

日常診療の中で診療チームの一員として、まずは外傷の初療や皮膚縫合法などの基本的手技の習得、創傷に関連して熱傷・褥瘡の治療について理解することを目指す。

また、形成外科では医療全体の中での位置を理解し、体表面の損傷、病変のプライマリ・ケアが行える技能を身につけ、形成外科医としての縫合法を習得する。医療人としての臨床力、態度を身につける。

B.　行動目標

1. 創傷の治癒の過程を理解する。
2. 創傷の初期の評価法について理解する。
3. 創処置の方法：創部の状態、部位、処置材料に応じた創処置の方法を習得する。
   - ・外傷の処置；局所麻酔法を実施できる。縫合できる創傷を判断し、実際に縫合処理を行う。
   - ・顔面の挫創に対する創処置を行う。
   - ・慢性の創傷についても、軟膏処置や創傷被覆材を使用できる。
   - ・熱傷の治療；熱傷について初期治療に参加できる。局所処置に用いる薬剤について理解する。
   - ・褥瘡の治療；成因、保存的治療、外科的治療、予防法について理解する。
   - ・創傷の処置に必要な物品（器材・薬剤）などについて使用法を説明できる。
4. 表在性の創傷（骨折、深部臓器の損傷がない）の診療に参加する。
5. 基本的手術手技を習得する
   - ・皮膚切開術　皮膚の膿瘍の単純切開を局所麻酔下で行う。
   - ・皮膚腫瘍切除術　簡単な皮膚腫瘍の摘出術を行う。
   - ・形成外科的縫合法；皮膚縫合法を実施できる。顔面などでは真皮縫合を行う。
6. 救急外来で縫合できる創傷を判断し、実際に縫合処理を行うことができる。
7. 救急外来での熱傷の深度、面積の評価ができる。
8. 経験すべき症候・疾病・病態

1）経験すべき症候

外来または病棟において、下記の症候を呈する患者について、病歴、身体所見、基本的な検査所見に基づく臨床推論と病態を考慮した初期対応を行う

a.　熱傷・外傷

2）経験すべき疾病・病態

外来または病棟において、下記の疾病・病態を有する患者の診療を行う。

a.　高エネルギー外傷

C.　指導体制

1. 形成外科医師は指導責任者として、ローテート期間を通して研修の責任を負う
2. 患者の診察、検査、治療に関する直接的指導は主治医（指導医）が行う。
3. 定期的に研修医の研修目標達成の進捗具合を点検し、適切に研修医に指示を与えるか直接指導を行う。

※現在は 2 人体制のため、外来・手術ともどちらかが指導しながら診療にあたる。

D.　研修方略

1.　オリエンテーション

1）研修カリキュラムの説明

2）科の概要

3）指導医と組んで外来、入院患者の診療を行いながら学ぶ。

2. 診療・処置

1）診察、処置などは、全て指導医の指導・助言の下に行う。

2）外来、手術とも診療に参加できる。特に手術は第一助手として参加する。

3）外傷に対する縫合処理は積極的に行ってもらう。

【週間スケジュール】

	午　前	午　後
月曜日	外来診療	手術
火曜日	外来診療	
水曜日	外来診療	
木曜日	外来診療	
金曜日	手術	手術

※週間スケジュールについては今後、変更の可能性がある。

【勉強会・カンファレンス】

カンファレンスは定期では行なっていないが、外来診察終了後に初診の患者さんの診療方針について検討している。

日本形成外科学会の関連学会、熱傷地方会、褥瘡学会などは希望があればいずれの日程でも参加可能。

名古屋大学形成外科教室のカンファレンスにも希望があれば参加可能。